がん医療チームにおける がん看護専門看護師の役割

小山富美子

IRYO Vol. 63 No. 3 (171－175) 2009

要旨 がん医療を受ける患者・家族を支える医療においては，多職種チームによってあらゆるニーズに対応することが重要となっている．がん看護は，がんの診断から治療選択，治療中，がんサバイバーとしての生活，再発治療と緩和医療，看取り，そして遺族へのサポートの時期までを支援することである．そのようながん看護を支える一員として，がん看護専門看護師がある．専門看護師とは，日本看護協会専門看護師認定試験に合格し，ある特定の専門分野において卓越した看護実践能力を有することが認められた者で実践，相談，調整，倫理調整，教育，研究，といった6つの役割をもつ．がん看護専門看護師は，患者と家族に対し，身体的，心理的，社会的，スピリチュアルな側面を含む全人的苦痛としてとらえ，苦悩を理解，緩和し，さまざまな局面での意思決定を支える役割が求められる．さらにチーム医療の一員として自律的に活動し，患者・家族のよりよいQOLを目指して調整的役割を実践することが重要である．

キーワード　がん看護専門看護師，チーム医療，全人的苦痛

はじめに

日本においてがんは昭和56年以降，死亡原因の第1位を占めてきている．平成19年度の統計では全体の30.3%，33万6,290人，つまり3人に1人ががんで死亡している．また，これまでがんは「死」と結びつきやすいイメージを持っており，そのような隠喩(いんゆ)をもつがんを突然告げられた患者や家族の苦悩ははかりしれない．がん看護の役割は，苦悩を抱えるがん患者やその家族を，診断から治療選択，治療中，がんサバイバーとしての生活，再発治療と緩和医療，看取り，そして遺族へのサポートの時期までを支援することである．専門看護師は，わが国では平成8年に認定が始まり，そのひとつの分野である「がん看護専門看護師」は，現在128名（全分野302名のうち）が認定され，活躍している．本稿では，急性期病院での筆者の活動から，がん看護専門看護師のがん医療チームにおける役割を述べる．

がん治療を受ける患者・家族を取り巻く状況

われわれ医療職がケアの対象としているがん患者は，多くの悩みを抱えており，またその悩みの内容は，がん診断の時期から治療前，治療中，治療後，とさまざまな局面において多様化し，複雑になって

市立池田病院　医療安全・質管理部　緩和ケア等対策室
別刷請求先：小山富美子　市立池田病院　医療安全・質管理部　〒563-8510　大阪府池田市城南3－1－18
（平成20年9月1日受付，平成21年3月13日受理）
Role of Oncology Certified Nurse Specialist in Cancer Treatment Team
Tomiko Koyama, Ikeda Municipal Hospital
Key Words: oncology curtified nurse specialist, medical team, total pain

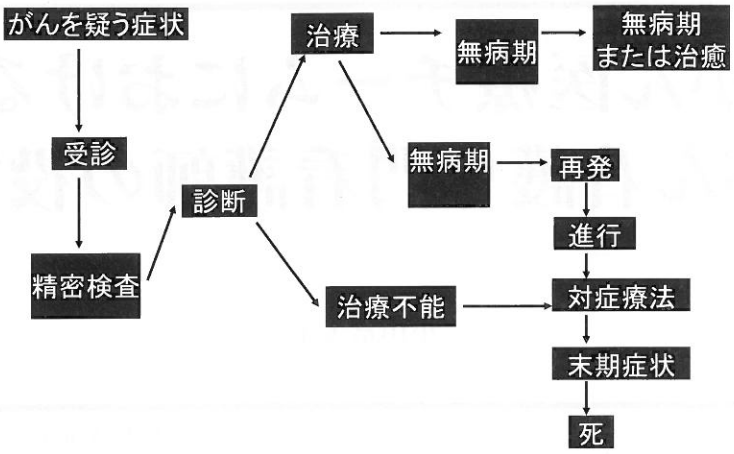

図1　がん患者がたどる軌跡

いく．厚生労働省のがんの社会学合同研究班が外来通院中のがん患者やがん体験者を対象に，悩みや負担を調査した結果では，一番多い悩みや負担は不安や恐怖といった精神的な悩みであり，次に身体の苦痛，生きる意味を問う悩みといった実存的な苦悩，そしてその次は経済面，家庭，家族のこと，仕事や人間関係，といった社会的な側面についての悩みであった．病気や身体のことだけではなく実にさまざまな側面の悩みを抱えていることがわかる．注目すべきは，医師や看護師とのかかわりが患者の悩みとなっているという結果である．私たち医療者は，がん患者を支援する立場であるにもかかわらず，心理的な負担をかけ得る存在であることを改めて肝に銘じなければならならない．

全人的苦痛（トータルペイン）としてとらえる

末期患者へのかかわりをとおしてシシリーソンダースは全人的苦痛（トータルペイン）という概念を提唱している．がん患者・家族の苦痛を理解するためには全人的苦痛としてとらえることが重要である．全人的苦痛とは，「身体的苦痛」だけでなく病気やその症状によって生じる不安やいらだち，孤独感などの「精神的苦痛」，生活および人間関係の変化や，社会的役割の変更や喪失などといった「社会的苦痛」，そして人生の意味や苦しみの意味などの「スピリチュアルペイン」の4つの側面でその人の痛みをとらえることである．つまり，がんという病気や症状だけを対象とするのではなく，がんという病を抱える一人の人間としてとらえ，症状や治療にともなう苦悩に対する全人的ケアが求められる．

がん患者・家族はがんと診断されたあるいはがんと疑って病院に来る時点から最期まで，多くの局面に直面する（図2）．そしてその局面のたびに言いようのない不安や恐れに直面するが，このような心理的状況で患者・家族は何らかの意思決定をしなければならず，とくにがんと診断された衝撃のなかでの意思決定はたやすいものではない．先の予測がつかない状況で医療者から聞きなれない説明を聞き，提示された選択肢を理解して選ぶことは，患者・家族にとって相当なエネルギーが必要である．心理的苦痛の理解と軽減のケアを行い，そのうえで意思決定を支援するケアを提供する医療者の姿勢が求められる．

このような場面での解決困難な事例については医師や担当看護師から，がん看護専門看護師に相談依頼が出される．筆者は医師や看護師とチームを組み，患者・家族が次に進むことができるよう不安な気持ちを傾聴し，気持ちの整理を手伝いながら解決するべき問題について共に考えるかかわりを行う．また，患者・家族が本来持っている力で対処していけるよう支援する．とくに患者や家族を悩ますのは，治療中の副作用に対する体調管理や仕事の調整，家族との人間関係である．

事例を紹介する．Nさん（70歳代，女性）は夫と自分自身の思いが異なることで悩みを抱えていた．大腸がんの手術後1年半で再発し，抗がん剤治療を長く続けていた．一時調子がよくなったので夫とのよい時間を過ごせていたが，それもつかの間，リンパ節転移，肝臓転移が増大し，痛みも出現して疼痛緩和目的で入院した．オピオイドによる鎮痛効果が

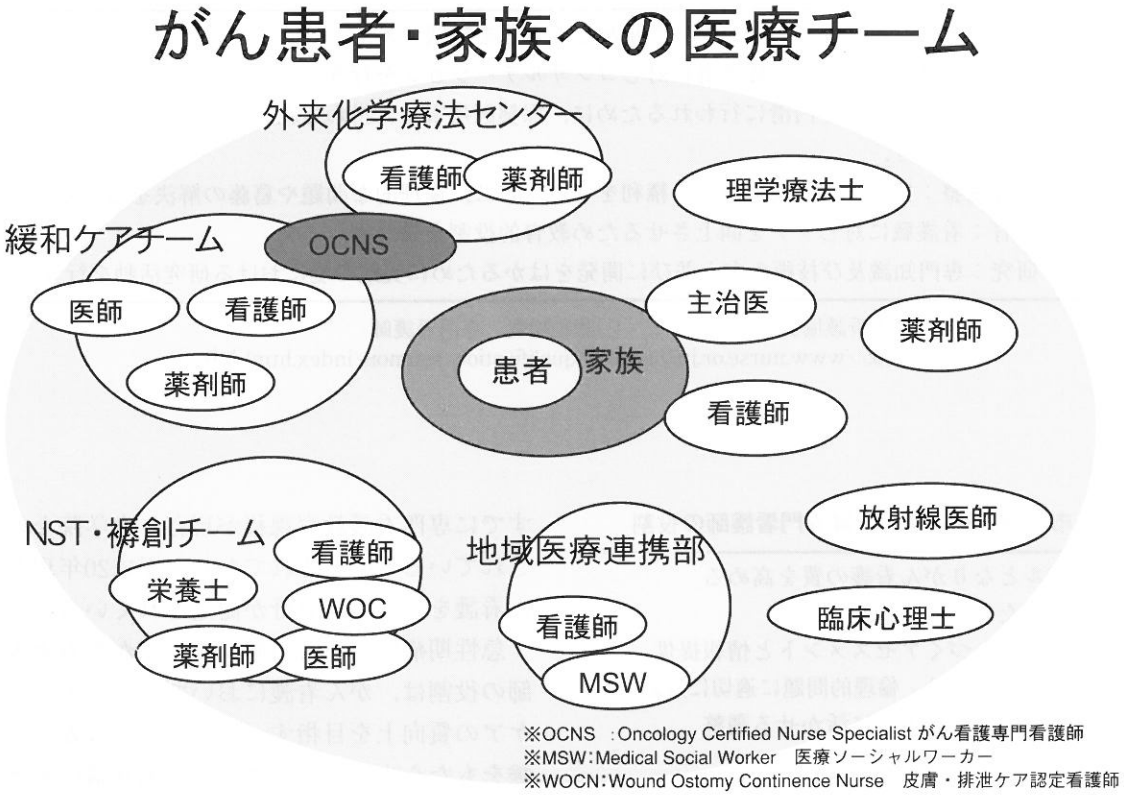

図２　市立池田病院における多職種チーム

あり自宅生活が可能となった頃，Ｎさんには次の抗がん剤治療が提案されていたがＮさんは「これ以上副作用で苦しむ生活はやめたい，自宅で花の絵を描いて過ごしたい」と考えていた．しかし，夫は抗がん剤治療をしてほしいと強く願っており，主治医に直談判していた．夫の気持ちと限りある自分の時間を大事にしたい気持ちとの狭間で苦悩するＮさんについて，主治医からの相談依頼を受け，筆者はＮさんと夫それぞれの思いを聞くことにした．互いのこれまでの体験とその思いを傾聴し，橋渡しをしながら「よりよい決定とは何か」について本人たちが考えられるように機会を見計らいつつ支持的なかかわりを続けた．Ｎさんの体調を整えタイミングを計って外出や温泉旅行の実現を支えていくうち，夫は「このような支え方でもいいんですね」と，治療をしない妻の選択を支える決心をされた．そして最期までの数週間，ご本人の思いどおりお２人で穏やかにすごすことができた．がん専門看護師が全人的苦悩をとらえ，主治医や担当看護師と共に，患者・家族の力を支えることの重要性を改めて認識した事例であった．われわれ医療者が目の前の患者・家族がどのような苦悩を抱えているのかについて，気を留めてかかわることこそ，全人的苦痛へのケアの第一歩である．

多職種チーム医療

患者，家族を全人的にとらえ，患者，家族が安心してがん医療を受けられるためには包括的なアプローチが必要であり，多様なニーズに応えるためには多職種によるチームアプローチが必要である．患者が通院する診療科や入院病棟だけでなく，さまざまな医療専門職でサポートすることが必要となる．市立池田病院（以下当院とする）のがん患者，家族へのチームは図３のとおりである．直接担当する医師や看護師をはじめ，薬剤師，放射線医師，理学療法士，栄養士，そして医療チームとしてかかわる外来化学療法センターのチームや緩和ケアチーム：Nutrition Support Team（NST），褥創対策チーム：地域とのネットワークをつなぐ地域医療連携部のチームなどがその患者家族の個々の問題や，その時々に抱える問題に応じてかかわり，チームとして機能

表1　専門看護師の役割

専門看護師は専門看護分野において

1．実践：個人，家族及び集団に対して卓越した看護を実践する．
2．相談：看護職を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う．
3．調整：必要なケアが円滑に行われるために，保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行う．
4．倫理調整：個人，家族及び集団の権利を守るために，倫理的な問題や葛藤の解決をはかる．
5．教育：看護職に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす．
6．研究：専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動を行う．

日本看護協会ホームページ　□認定制度　専門看護師
http://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/senmon/index.htmlより

表2　市立池田病院がん看護専門看護師の役割

・ロールモデルとなりがん看護の質を高める
・安心と快をもたらすケアの提供
・専門的知識にもとづくアセスメントと情報提供
・患者・家族の代弁者とし，倫理的問題に適切に対応する
・チーム医療の利点を最大限に活かせる調整
・スタッフのサポート
・チームメンバーが相互にエンパワーできるように支援
・組織の強みを活かし地域医療と連携する

している．多職種が，それぞれの専門性をタイムリーに発揮し，十分に機能することは，患者，家族にとって大きな利益となる．そのためには，これらの多職種チームを橋渡しする調整役割がたいへん大きな鍵（かぎ）となる．多くの場合，その橋渡し役を行っているのは主治医や担当の看護師である．当院では医師が多忙であることから看護師がその役割を果たす機会が多く，看護師が患者家族のニーズを適切にとらえ，その時々に必要な職種のサポートを得られるよう調整役割を果たす．その際に看護師の相談を受けたり，協働して橋渡しを行っているのが，がん看護専門看護師である．

がん看護専門看護師の役割

専門看護師とは，日本看護協会専門看護師認定試験に合格し，ある特定の専門分野において卓越した看護実践能力を有することが認められた者であり，実践，相談，調整，倫理調整，教育，研究，といった6つの役割を果たす（表1）．専門看護分野は，すでに専門看護教育課程が現存し大学院などで実施されているものとされており，平成20年現在は，がん看護をはじめ10分野が認定されている．

急性期病院である当院においてがん看護専門看護師の役割は，がん看護においてロールモデルとなりケアの質向上を目指す，患者家族には安心と快の体験をもたらすケアの提供，専門的知識にもとづくアセスメントの実施と情報提供，倫理的問題への対応，教育を含めたスタッフのサポートなどである（表2）．さまざまな疾患の患者が入院している急性期病院では，がん医療・がん看護だけに専心することができず，ジレンマを抱える医療者は多い．雑然とする臨床のなかで専門看護師が，専門的な立場からサポートすることによって，それぞれ多職種のアプローチがより効果的に発揮できる．たとえば，医療やケアの方向性についてがん看護専門看護師としての意見や問いを投げかけ検討の機会を持つ，といったことである．検討の場の設定をすることでそれぞれの専門的意見が交わされ，よりよい方向性に向かって検討することができればチームメンバーの相互エンパワーにつながる．これはがん看護専門看護師のたいへん重要な役割であると認識して活動している．当院のような一般の急性期病院では，院内の強みを理解してそれらを資源として活用すること，さらに，自らもその一部として効果的に機能することを使命と考えて活動することが重要である．互いのモチベーションを維持，向上できるよう，医療チームの一員である自覚をもち，自律的に行うことを心がけてがん看護専門看護師の実践を行っている．

おわりに

がん医療におけるがん看護専門看護師の役割の一部について述べてきた．がん専門看護師は現場の看護師を助け，協働しながらがん患者，家族のそのときに適したケアを組み立て，他職種と連携している．そしてその最大の目標はがん患者とその家族が，がんを持っていながらもその人（家族）らしい生き方を選ぶことができ，問題に対処することができるよう支えることである．この目標を患者，家族をとりまくチームで共有できるよう医療者間のコミュニケーションを促進していくことがん看護専門看護師の重要な役割である．

［文献］

1）淀川キリスト教病院ホスピス編．緩和ケアマニュアル第5版．大阪：最新医学社；2007.

2）恒藤　暁．全人的苦悩とチーム医療．大阪：最新緩和医療学．最新医学社；1999：p 6 -10.

3）吉田智美．CNSとは何か　専門看護師（CNS）のいま．臨床看護　2005；31：1585-7．

4）濱口恵子．チームアプローチ．恒藤暁，内布敦子編．系統看護学講座，別巻10　緩和ケア．東京：医学書院；2008：p82-101.

5）小山富美子．緩和ケアの質確保のために　急性期病院における試み．看護管理　2008；18：770-6．

（本稿は第60回国立病院総合医学会　シンポジウム　「がん医療におけるサイコオンコロジー的アプローチ　リハビリテーション関連職種の役割」「がん看護専門看護師の役割」発表内容に加筆修正したものである）